“２０３０ビジョン“ プロジェクト

日本に明るい未来を！

２０３０ ビジョン

国民の視点で日本の将来ビジョンを考え
皆で共有し実現するプロジェクト活動

このプロジェクトの 狙い

２０３０ビジョン

人口減少・低ｴﾈﾙｷﾞｰ社会でも
皆が希望を持てる
幸せで持続可能な国

皆で目指す姿を考える　～１０月末

↓

目標と達成手段を考える ～１２月末

↓

実現に向けて努力していく

“将来不安な国”
からの旅立ち

・財政赤字　・医療福祉
・食料　・エネルギー
・少子高齢化・政治不信

- 将来の国のありようを広く国民の間で共有すること。
- 取組み施策の実現に向けて努力していくこと

第１０回検討会

未来を創る教育のあり方

１．パネルディスカッション　　１８：００～１９：１０

「日本の教育の課題と未来を創る教育のあり方」

≪パネラー≫

◎ 中山　弘
◎ 古田　雄一
◎ 新井　征太郎
◎ 黒澤　一樹

２．ディスカッション　　１９：１０～２１：００

1）グループディスカッション　　１９：１０～２０：２０

2）ディスカッション共有・纏め　２０：２０～２１：００

１．パネルディスカッション

「日本の教育の課題と未来を創る教育のあり方」

≪パネラー　≫

◎中山　弘　　(”２０３０ビジョン”プロジェクト 代表)

自動車メーカーを定年退職後、当プロジェクトを推進中。
① 企業での研究開発、商品企画、経営管理等の実務経験、
② 専門学校の経営、さらに ③大学入試の一般受験体験
を通して、現在の日本の教育に疑念を抱いています。
「社会に役立つ教育」のあり方を考えてみたいと思います。

2009.10.10 @新橋バルーン

■パネルディスカッション

第10回　10月10日　検討会
「未来を創る教育のあり方」に向けて

■グループディスカッション「予定テーマ」

◎ 他の人たちや社会に関心を持ち、考え、
主体的に行動する人たちをどう育むか？

◎ 学ぶことや学校そのものに興味を失う人たちを
作らないようにするにはどうしたらよいか？

◎ 真に社会で役立つ人を育む教育の仕組みは？
高等教育や試験制度はどうあるべきか？

◎ その他･･･

≪プレゼン資料　① 中山　弘≫

教育の目的は以下のようなことだと考えていますが、
今、行われている学校教育は方向が違うように感じています。

教育の目的は
豊かな人格と社会で役に立つ能力を形成すること

「生きる力」＝「考える力」

- 世の中について考える力
  - ・自分が望む社会を思い描く力
  - ・多様な価値観を認め、尊重する力
- コミュニケーションする力
  - ・人の気持ちや考えを理解する力
  - ・他者と協力してものごとを進める力
- データや情報を分析する力
  - ・問題を自分で感じ、考える力
  - ・必要な情報を収集し判断できる力
- 問題を解決できる力
  - ・問題の本質を見抜く力
  - ・自ら実践する力

現在の教育は・・・

- 試験に合格する力？
- 定型問題に正解する力？
- 記憶力？
- 情報処理力？

≪中山 弘≫

これからの教育について、以下のようなことをディスカッションしたいと思います。　その1

● 考える力を育むには？

- ✔ 社会の問題への関心を高める
- ✔ 問題を発見し解決する力を高める
- ✔ データや情報を分析する力を高める
- ✔ コミュニケーションする力を強める

● 人を思いやる力を育むには？

- ✔ 人としてのモラルを身に付ける
- ✔ 相手の立場で考えられるようになる

◎ 受験をゴールとした教育体系を
根本から変える

◎ 社会科系の学びを高める
・歴史、地理、政治、経済を
小学校⇒中学校⇒高校　で体系的に

◎ 理科、歴史、国語などを通して、
「なぜ？」、「原因と結果」の関係を学ぶ

◎ 記憶、処理能力中心の学習から
調べて考える学習を基軸に据える

◎ 家庭内教育を重視する

◎ 地域コミュニティーが教育に参加する

上記を支えるバックグラウンドとして

◎ 労働時間を短縮し
「ワークライフバランス」を高める

◎ 学歴至上の考え方を皆が改める

≪中山 弘≫

これからの教育について、以下のようなことをディスカッションしたいと思います。　その2

● 学ぶことへの意欲を高めるには？

- ✔ 幼時から学びの楽しさを味わう
- ✔ 学ことの目的をよく理解する
- ✔ 学ぶことで自らに自信が持てる
- ✔ ドロップアウトしない学びの仕組み

● 教育機会を公平に提供するには？

- ✔ 親の収入によって差がつかない
- ✔ 公教育で学びが保障される

◎ 小学校入学前からの学びの準備
・就学前教育の充実

◎ 日常生活、環境・自然、社会生活と
学びの関連性を明確に示す

◎ 適度な競争がありながら、
自らの強みを活かし自信を持てる仕組み

◎ 公教育の充実
・落ちこぼれをつくらない
・公教育だけで大学進学が可能となる

◎ 公教育の無償化
・教育費、給食費、諸費用、が無料

◎ 高等教育への手厚い奨学制度

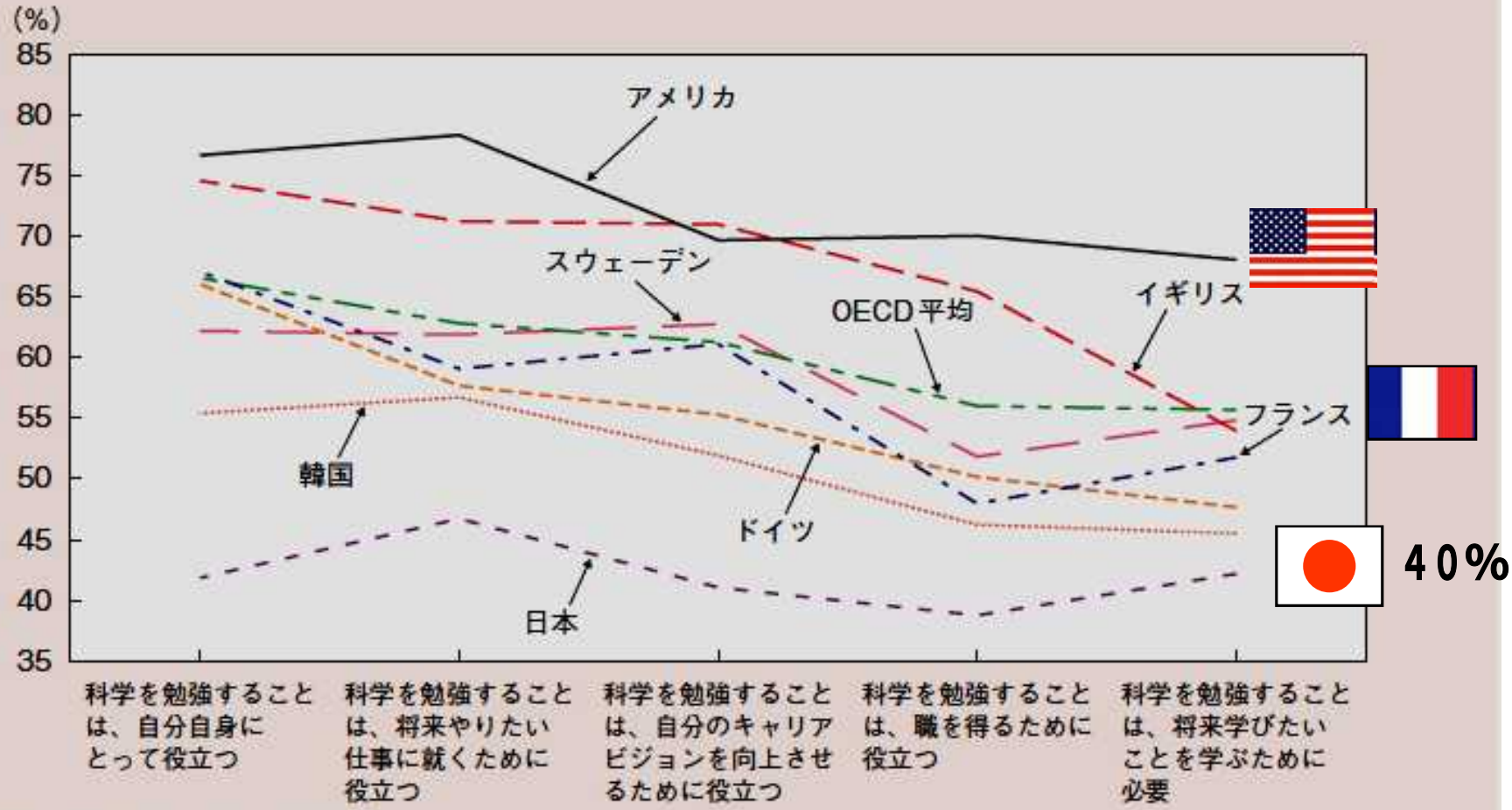
上記を支えるバックグラウンドとして

◎ 教育が国の基本という合意形成と
公的教育支出の確保

◎「公教育を塾が補完する」という
コンセプトからの脱却

[課題認識]　学習が仕事に結びついてないと考える学生が多い
現在の教育で良いのだろうか？

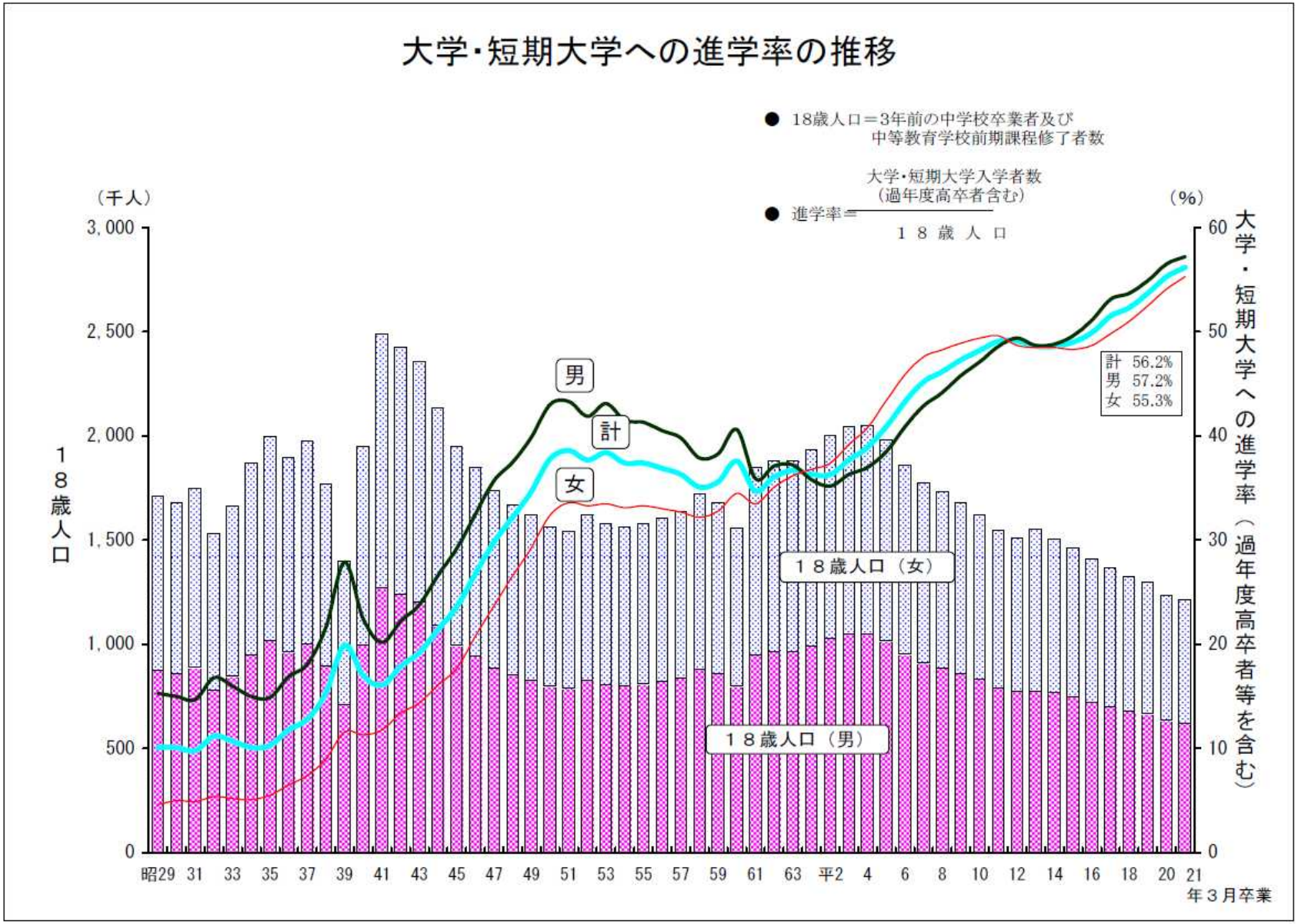
第2－（1）－25図　学習と仕事を関連づけて考える者の割合



資料出所　OECD「PISA2006」
（注）数値は、各項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」を合計した割合。

出典：平成20年版「労働経済白書」労働経済の分析　http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/08/dl/02_0001.pdf

[課題認識]　大学･短大への進学率は右肩上がりだが、少子化が進行する中で、大学全入が正解なのだろうか？

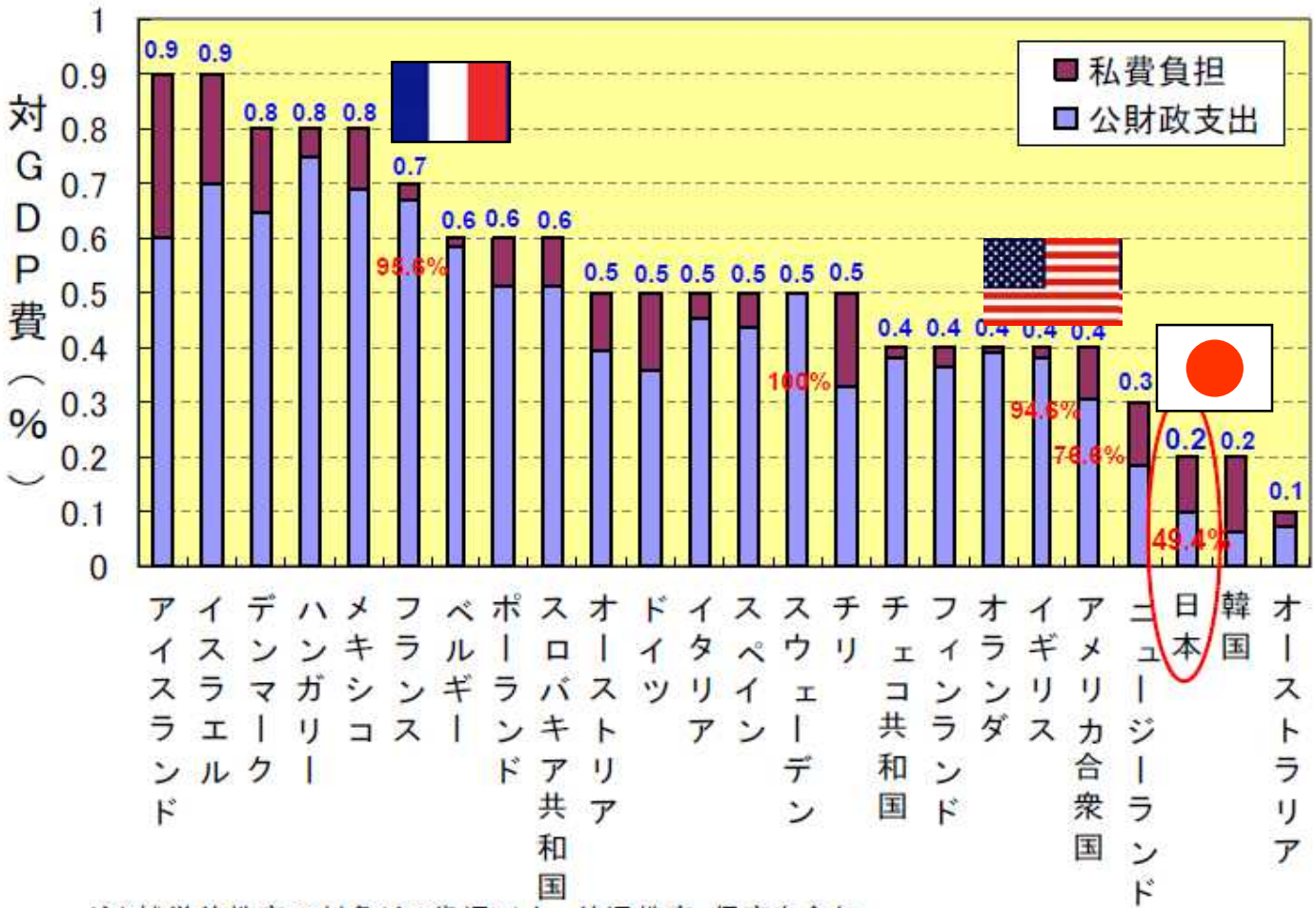


出典：平成21年度学校基本調査速報　参考図表　http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2009/08/06/1282571_9.pdf

[課題認識]

小学校での学ぶ意欲低下、理解力低下を防ぎたいが、
就学前教育は足りているのだろうか？

公財政支出及び私費負担による就学前教育機関に対する支出の対GDP費（2003年）



注）就学前教育の対象は3歳児以上、幼児教育・保育を含む。
（出所）OECD　図表で見る教育（2006年版）　表B2.1c.表B3.2a.から経済産業省において作成

幼稚園就園率
日本　５８％
フランス　１００％

出典：「成長・人的資本・教育に関する参考資料・分析結果」
経済産業省　２００６年１１月

http://www.meti.go.jp/committee/materials/downloadfiles/g61117a06j.pdf

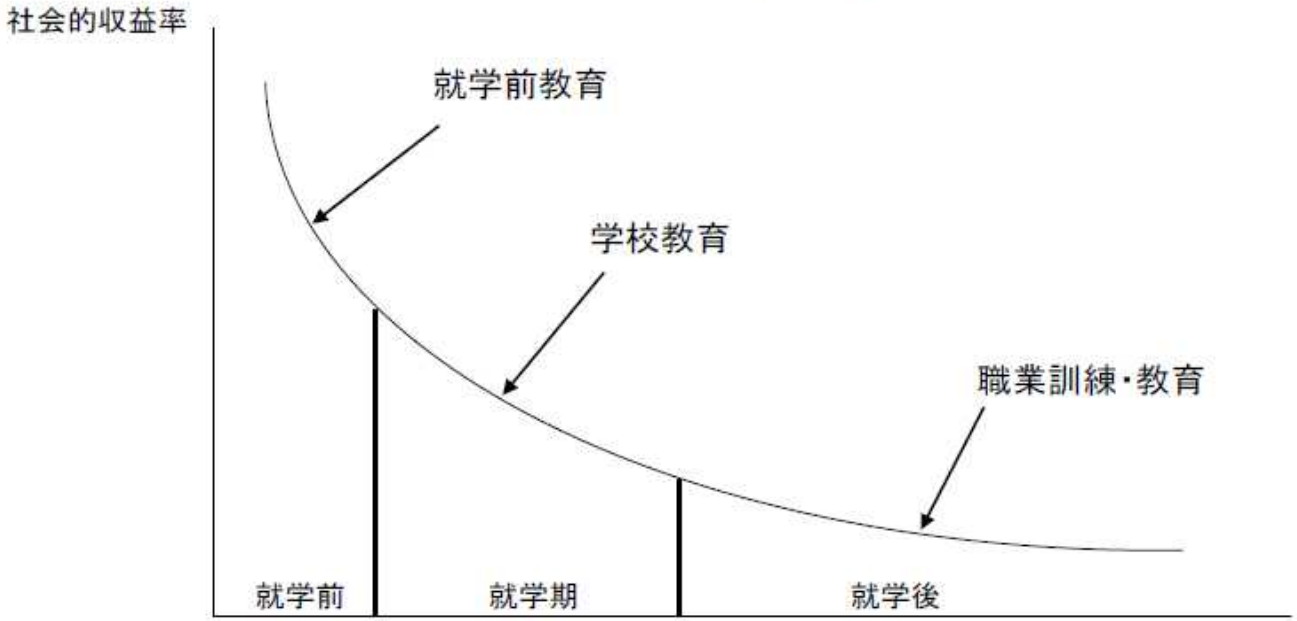
[課題認識]

早期教育が社会的収益率が高いと考えられるので
就学前教育、小学校教育を充実すべきではないだろうか？

早期教育充実の必要性

○ 教育投資に対する社会的収益率に関する実証研究からは、世界平均で初等教育が18.9%、中等教育が13.1%、高等教育が10.8%、我が国でも初等教育が9.6%、中等教育が8.6%、高等教育が6.9%となっており、いずれも初等教育の収益率の高さを示している。また、就学前教育に関しては、一層効果が高いと言われている。

教育投資に対する収益率

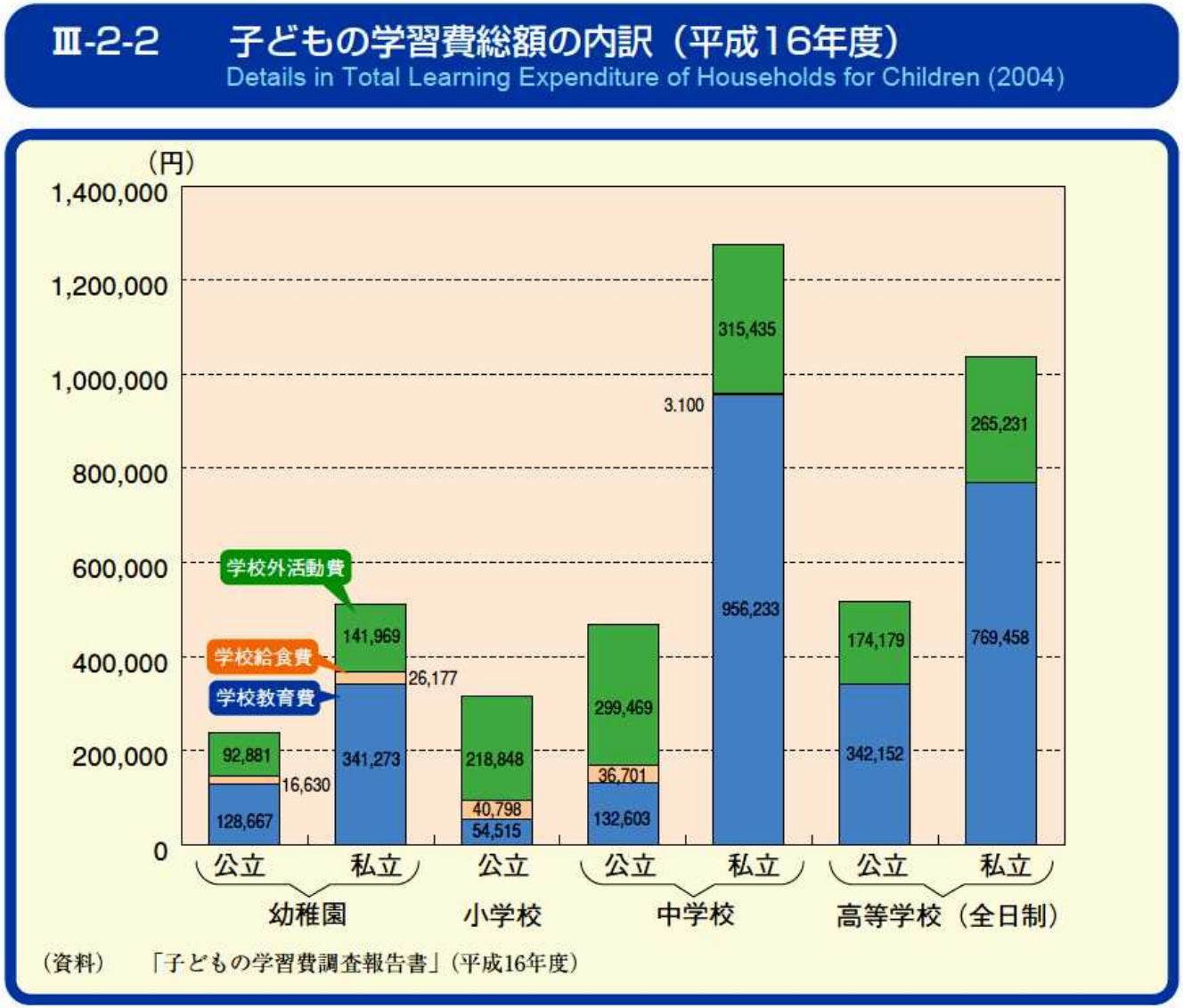


出典：「成長・人的資本・教育に関する参考資料・分析結果」
経済産業省　２００６年１１月

http://www.meti.go.jp/committee/materials/downloadfiles/g61117a06j.pdf

[課題認識]

子どもの学習費で、学校外活動費　塾の費用が大きく
これが、教育格差を生むもとともなっている。

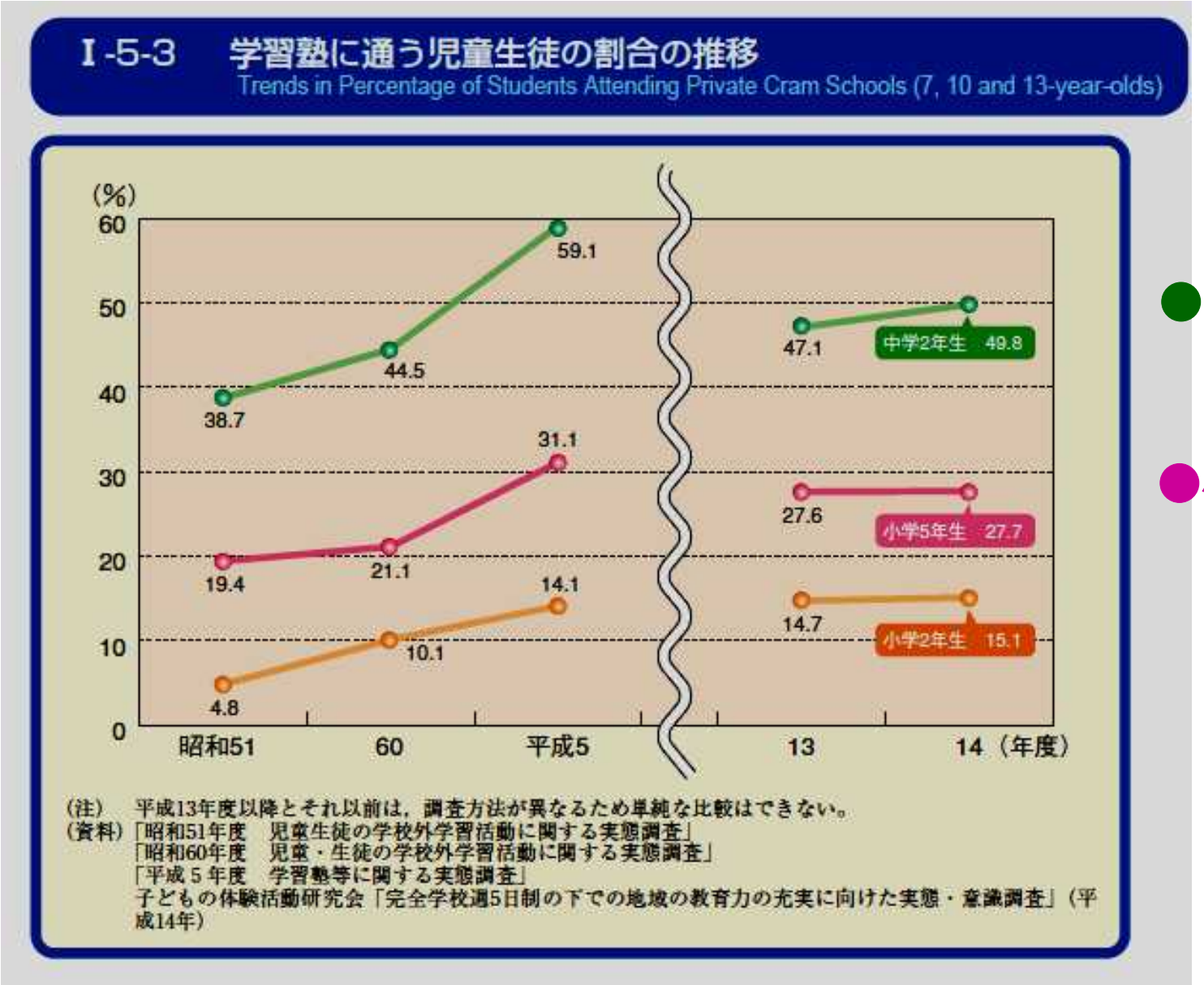


出典：文部科学省「データからみる日本の教育」 2006

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/toukei/06122122.htm

[課題認識]

教育の機会均等を考えたら、
公教育を充実するのが本筋ではないだろうか？

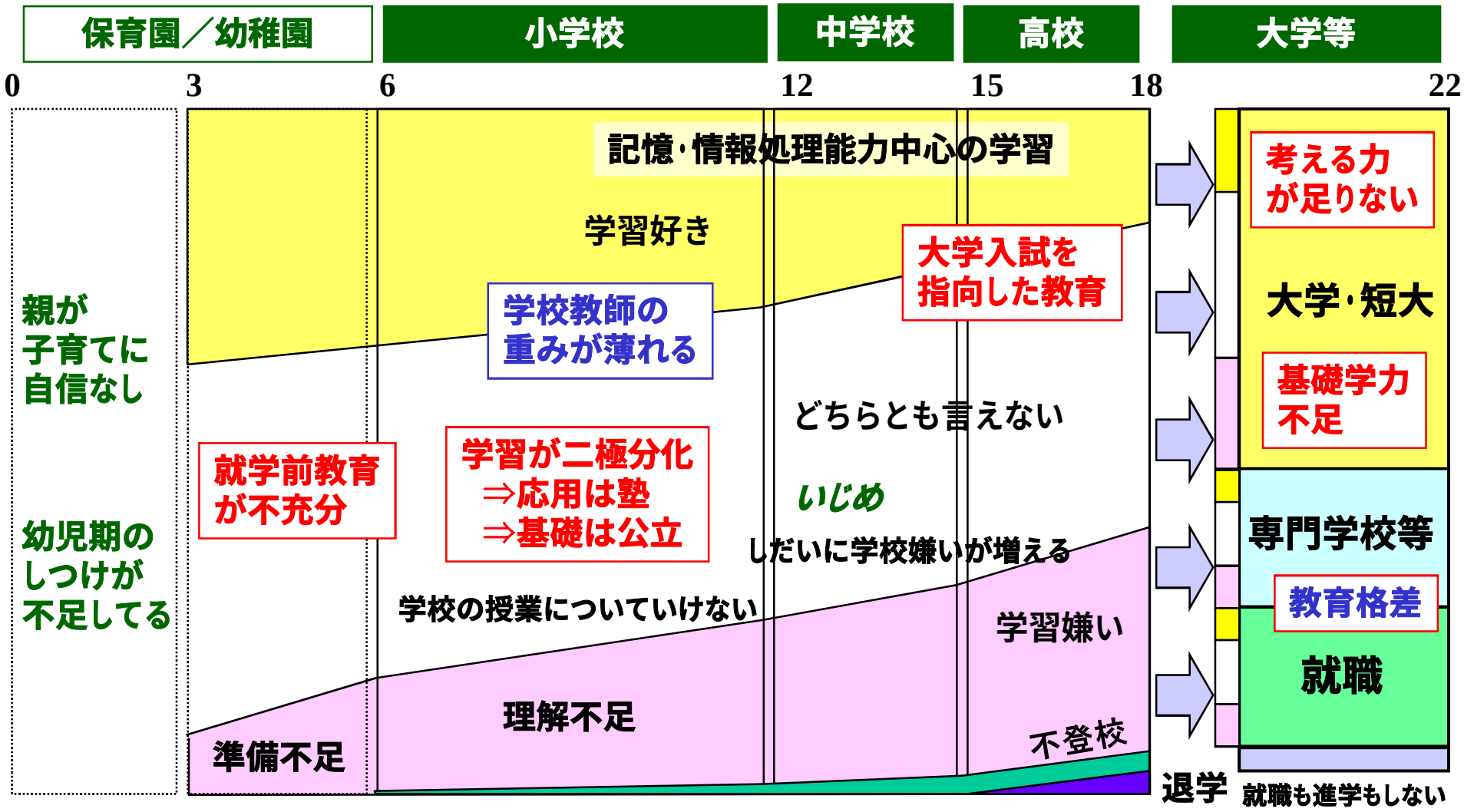


●中学2年生の
半数が塾に通う

●小学５年生の
1/4 が塾に通う

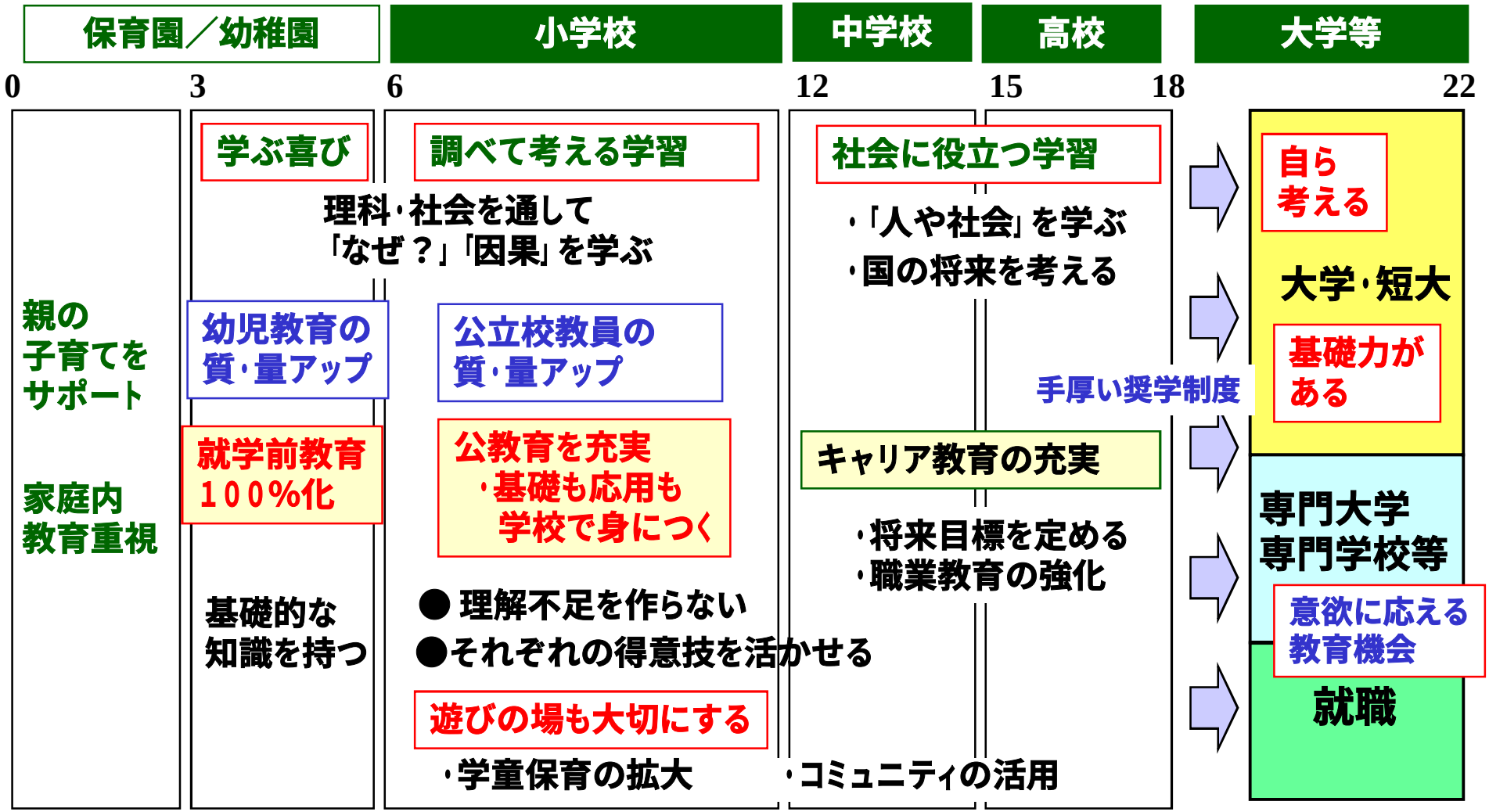
出典：文部科学省「データからみる日本の教育」 2005

「教育の現状と課題」イメージ



- ■ 核家族化で相談相手がいない
- ■ 権利ばかり主張するモンスターペアレント
- ■ 子育てしやすい社会になっていない
- ■ 学校や塾任せで、社会が育む感覚が少ない
- ■ 労働時間が長くワークライフバランスが悪い
- ■ 意欲・能力がなくても進学、あっても就職

「未来を創る教育のあり方」イメージ



■ 教育が国の基本という合意形成
■ 公教育の無償化（教育費・給食費・諸費用が無料）
■ 子育てしやすい社会をつくる
■ 社会が子どもたちを育て教える（ナナメの関係を活かす）
■ 労働時間が短くワークライフバランスが良い
■ 意欲・能力に応じて進学できる仕組み

１．パネルディスカッション

「日本の教育の課題と未来を創る教育のあり方」

≪パネラー　≫

◎ 古田雄一　（東大教育学部３年・「わかもの科」企画）

東京大学教育学部の3年生で、教育を学びながら日々活動中。
“受験勉強だけじゃない、今必要な学びが、あるんじゃないか”
“もっと多くの若い世代に、社会のことに関心を持ち、考えてほしい”
そんな思いのもと、新しい学びのかたちを作り、広げる第一歩として、
高校生を対象に「わかもの科」というプロジェクトを立ち上げ、活動中です。

≪プレゼン資料　② 古田 雄一≫

2030ビジョン　第10回検討会

「未来を創る教育のあり方」

「わかもの科」プロジェクト　代表
古田 雄一（東京大学教育学部 3年）

生い立ちと、教育への問題意識

生い立ち：

- 公立小学校に通ったのち、私立の中高一貫の進学校に入学。
- 高1の夏に父親の転勤の都合でアメリカへ、現地の学校に編入。
  そのまま卒業まで現地校で過ごす。
- 高校卒業後、日本に帰国し、「帰国子女枠」で大学を受験。
  東京大学に合格し、2007年に入学。

- 一般の受験生を横目に帰国子女受験の勉強をする中で…
- そして実際に大学に入って様々な周りの友人の話を聞く中で…

「本当にあのような勉強だけでいいのか
…？」という疑問が生じるようになる

「受験一元主義」の問題

◆ 受験における狭い「学力」「勉強」観

受験で問われる「学力」は、いかに知識やパターンや法則をたくさん覚え、与えられた正解にいかに早くたどり着くか

→「正解のない問い」に向き合って考えることがない！

※受験そのものが問題というよりは、“学ぶ中身”と、受験の“自己目的化”が問題！

◆ 学校や学ぶ内容の閉塞化

「受験に役立つかどうか」が、学ぶ内容を選ぶ基準になっている

→受験に役立たない勉強が切り捨てられていく…

◆ 受験勉強・大学入学の自己目的化

目の前の受験勉強に没頭するあまり、「何のために学ぶのか」「何のために大学に行くのか」を十分に考えられない

→自分の関心や問題意識、将来について考える機会が必要！

もっと広く豊かな学びを…

知識やパターンを覚え、
与えられた正解にたどり
つくことを鍛える勉強

→

正解のない問いに向き合い、
自分たちの頭で考え、議論し、
“納得解”・“共生解”を
導き出す学び

「受験に役立つ」こと
ばかり優先される現状

→

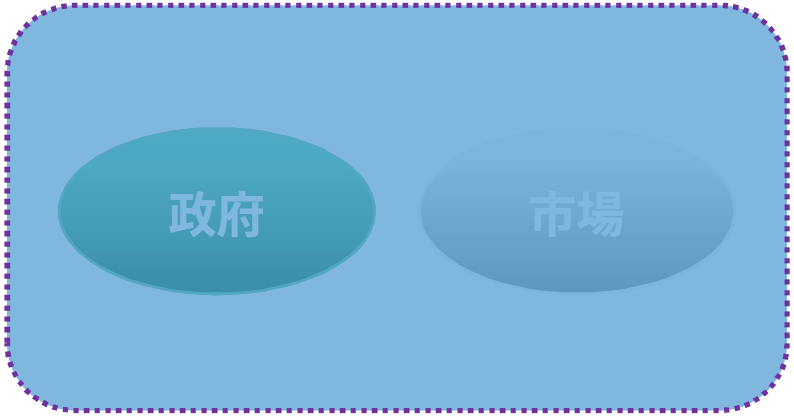
受験に役立たなくても、
世界観を広げる上で大事な
ことも学んでゆく

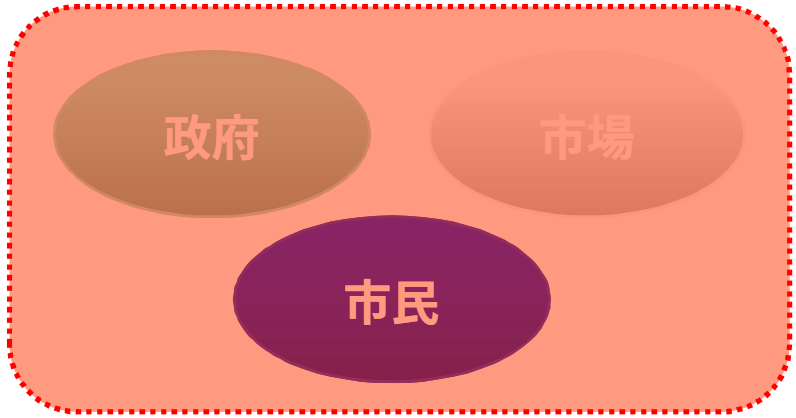
受験勉強などに追われ、
自分の関心や将来に
ついて考える機会がない

→

自分の関心や将来について
考えるような機会を提供

もう1つの問題意識 ― “市民”意識





現代社会では、政府や市場に“お任せ”するだけでは、もはや解決できないような難しい問題もたくさん出てきている…

そこで、私たち一人一人が、市民として社会のことに関心を持ち、考え、主体的に様々な問題に取り組んでいくことが重要に！

教育を通して、若い人たちに、もっと社会のことに関心や問題意識を持ってもらえるようにしていきたい！

まとめ ― 今必要な、「新しい学び」へ

正解のない
問いと向き合い、
考える学び

社会に関心を
持ち、考える
きっかけを
提供する学び

自分自身や、
将来のことに
ついて考える学び

今必要な、「新しい学び」

⇒ その具現化の第一歩として
「わかもの科」プロジェクトを始動！

参考：「わかもの科」プロジェクトのご紹介①

● 「わかもの科」とは？

主に高校生を対象に、大学生・院生を中心としたプロジェクト・チームが、学校外部から、総合的な学習の時間や放課後の時間を利用して、「身近なことから社会のことまで、ちょっと真剣に考えたり、議論したり、学んだりしてみる」場を提供するプログラムです。

● コンセプト・ねらい

正解のない問いと向き合い、考える（新しい学力）

×

社会に関心を持ち、考えるきっかけを提供する（市民性）

×

自分自身や、将来のことについて考える（キャリア）

● プロジェクトの目的

この「わかもの科」が目指すような新しい学びのかたちや、その重要性を、社会に広げていくための第一歩として、実践のモデルケースを作ることがプロジェクトの目的です。

参考：「わかもの科」プロジェクトのご紹介②

● プログラムの概要

・「学習パート」と「協働パート」の2つのプログラムがあります。
・「自分・ひと・社会」をテーマに、身近なことから社会のことまで、幅広く扱います。

① 学習パート

ワークショップやグループワークなどを通して、身近なことから社会のことまで、物事の見方や考え方を深めます。

＜コンテンツ例＞
「豊かさって何だろう」
「歴史は一つじゃない」
「多数決って正しいの？」
「“大人になるってどういうこと？」
「“自己責任”について考える」
「今どきの家族、これからの家族」
「環境はなぜ守らなくてはいけないの？」
…ほか多数作成中！

② 協働パート

実際に社会にある様々な問題を題材として、グループで、その問題を解決するための方策を考えます。

1．背景知識などの資料を事前に用意
2．テーマごとに班を結成
3．グループで問題分析し、解決策を考える
4．中間発表、最終発表を行う

＜テーマ例＞
環境問題、地域活性化、食、農業、少子高齢化・福祉、家族・共同体、貧困問題・労働問題、歴史問題、ジェンダーなど

参考：「わかもの科」プロジェクトのご紹介③

● 実現手段

・学校外部から、「プロジェクト・チーム」が高校側と連携してコンテンツ提供

・「総合的な学習の時間」や放課後の時間を主に利用して実施

・プログラムを何年か継続して実施した後には、ファシリテーターについては、「わかもの科」を経験した上級生やOB・OG、地域の人などが、そしてコーディネーターは先生に引き継ぎができるような体制を作り、自立定着を目指します。

● 今後の行動計画の概要

① 準備期（09年度）

・学校開拓・交渉
・コンテンツの準備（コンテンツ・教材の作成）
・その他諸準備

② 実践の順次導入（10～12年度）

実践を段階的に導入→完全導入へ
（いきなり完全導入は難しいので）

段階的導入の例：
・はじめは単発で「学習パート」を実施
・「協働パート」を学外でイベント形式で実施後、学校へ導入

③ その後の展開（13年度～）

その後の展開の方向性の例：

・NPOとして事業化
・地方の教育委員会と連携し、次のレベルのモデル・ケースへ
・報告書を文科省に提出し、トップダウンの改革へ

１．パネルディスカッション

「日本の教育の課題と未来を創る教育のあり方」

≪パネラー　≫

◎ 新井征太郎　(明聖高校地歴公民科教師)

全校生徒の８割が中学不登校の高校で、専任教員３年目。
生徒の「学ぶ意欲」や「物事へのモチベーション」を上げるには
どうしたらよいか。一度電源が切れた、彼らの「心のスイッチ」
をオンにするにはどうしたらよいか。
これらを課題と感じ、日々働いています。

≪プレゼン　③ 新井 征太郎≫

人生のスタート、生まれた時点は皆一緒。

本来、人間は生きるために人と接し、

何かを「やる」ことを求める生き物ではないのか?

なぜ、何に対しても無気力、やる気なしの人間が出てきてしまうのか?

周囲の働きかけで、彼らのやる気、意欲は生まれるのか?

日々、考えます。

様々な方々のご意見、聞いてみたいです。

１．パネルディスカッション

「日本の教育の課題と未来を創る教育のあり方」

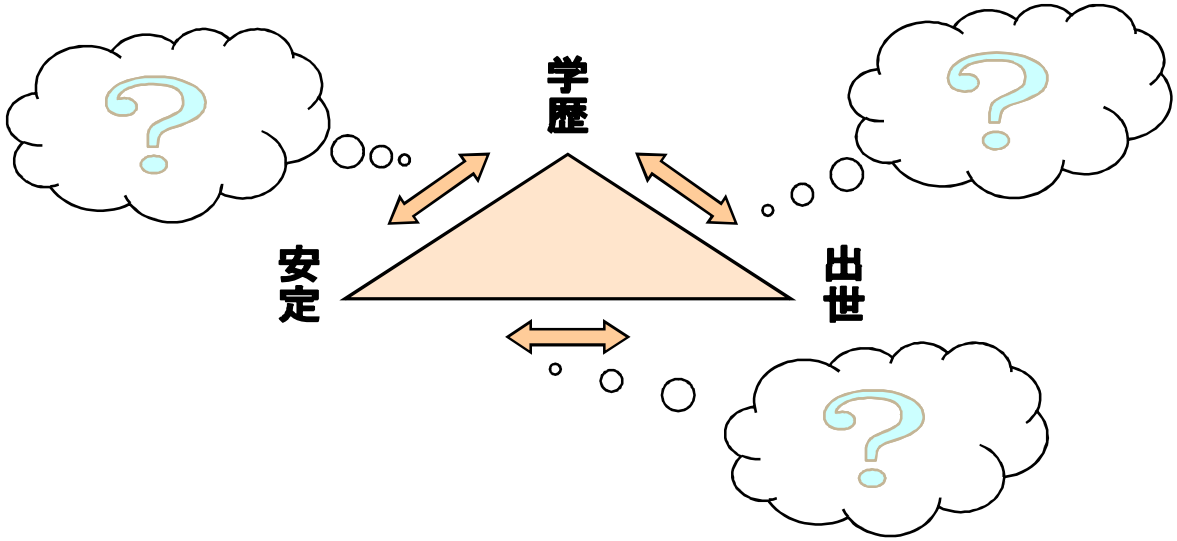
≪パネラー　≫

◎ 黒沢一樹　（ＮＰＯ法人若者就職支援協会理事長）

税理士法人で働く中卒サーラリーマン。そして、社会企業家。
このような私からみた、現代社会のもつれを紐解いていきたい。
『高学歴＝安定』が成り立たなくなってきている昨今の日本の現状をもとに、
教育の在り方を考えていきたいとおもいます。

≪プレゼン　④ 黒沢 一樹≫

◆学歴社会の崩壊における教育のあり方とは？



◎私達が向かっている社会（主に日本社会）の状態

- グローバル経済の進展
- 少子高齢化
- 終身雇用の崩壊
- 大学全入時代の到来
- 資源の枯渇
- 経済成長の停滞もしくは低下（右肩下がり）
- 情報の氾濫（発信と受信の容易化）
-

≪黒沢 一樹≫

◆『めんどくさい』と『おせっかい』！！

◎私達の心のありようがもたらす社会の状態

・地域コミュニティの崩壊
・日本文化に衰退
・未婚率の増加
・創造力の低下
・

≪黒沢 一樹≫　　ＮＰＯ法人若者就職支援協会

ビジョン（Vision）　～私達が実現したい(社会の)状態～

『若者』が精神的、経済的に自律し、未来へ希望が持てるポジティブな社会

ミッション（Mission）　～私達がすべきこと～

①『若者』が将来を真剣に考えるきっかけを創る
社会人と学生とが触れ合う機会を作り、学生自身が「働くこと」について早い段階で真剣に考えるきっかけを与え、後悔のない人生を歩んでいけるようにすること

②　『若者』が共に高め合えるコミュニティを創る
若者同士が共に刺激し合い、未来に向かってポジティブに生きていく際の、支えとなる仲間を作るきっかけとなるコミュニティを創造すること

③『中小・中堅企業』の活性化に貢献する
中小・中堅企業が、元気でモチベーションの高い若者を積極的に雇用し、活力に溢れる事業展開をしていけるように支援すること

プリンシプル（Principle）　～私達が心がけていること～

・誰もが持つ「長所」を伸ばしていくために、それぞれの個性を尊重すること

・悩みを自分のことと捉え、誠心誠意の対話をすること

・私達自身が常に前向きであることにより、ポジティブな連鎖を産み出すこと

・社会の一員としての意識を常に持ち、多くの関係者との連携の中でビジョン実現に突き進むこと

≪黒沢 一樹≫　　ＮＰＯ法人若者就職支援協会

ビリーフ (Belief)　～私達が信じていること～

・人は、切磋琢磨する仲間の存在があれば、ポジティブな連鎖反応を産む ことができ、主体的に努力することができるということ

・若者が、自らの将来を真剣に考えるためには、学校の先生や両親など特に影響力の強い大人以外にも、様々な社会人に触れ合うことに意義 があること

・学歴の高低は、学生自身の主体性が形成される以前に決まってしまうケースがほとんどであり、それによって人生が決まるものではなく、誰でも努力次第で明るく豊かな未来を自分の力で創造できるということ

若者が活き活きと社会で活躍していく状態を創るためには、日本経済の活性化が不可欠であり、そのためには、日本経済の基盤である中小･中堅企業の経営を活性化することが必要であるということ